

核戦争防止

兵庫医師の声

第 103 号 2019 年 7 月号

発行 核戦争を防止する
兵庫県医師の会

〒650-0024
神戸市中央区海岸通 1-2-31
神戸フコク生命海岸通ビル
5 F 兵庫県保険医協会内

電話 078 (393) 1807
振替 01130-6-57830

第 29 回反核医師のつどい in 長崎・参加記

反核・反原発へ思い強く

運営委員 松岡 泰夫 (長田区)

「核戦争に反対する医師の会」等が主催する「第 29 回反核医師のつどい」が 2018 年 11 月 3・4 日長崎市内で開催され、全国から医師・歯科医師・医学者・医療関係者ら 218 人が参加し、反核医師の会・兵庫からは武村義人・加藤擁一・川西敏雄・松岡泰夫各運営委員が参加した。松岡泰夫先生の参加記を紹介する。

清々しい秋空の下、各県の反核医師の会の友人や平和に関心の高い一般の方たちが「反核医師のつどい」に参加するため、長崎市にある原爆資料館ホールに集いました。初日の第一部は「被爆証言」でした。まず 4 歳で被曝した田中重光さんのお話から始まり、長崎民医連の被爆体験者からの聞き取り調査報告、長崎県保険医協会会長の本田孝也先生の「残留放射能」問題についての講演、最後は心温まる高校生平和大使からの活動報告でした。また、第二部は「福島原発」について、福島県・医療生協わたり病院の齋藤紀先生の報告でした。

印象に残ったことを箇条書きにすると、①長崎民医連や本田先生の報告では単純に爆心地からの距離ではなく、天候で左右されており、高い



記念講演した（左から）ティルマン・ラフ氏、

朝長万左男氏、中村桂子氏

放射能を含む「黒い雨」が降った地域での急性放射線障害が重かったとのことで、福島原発事故の時に飯館村を襲った「プルーム」を彷彿としました。②長崎民医連の行った「被爆体験聞き取り調査」では、体験者自身から「被爆当時のことは今まで子どもや孫にも話していないが、聴いてくれてありがたかった」と感謝されたとのことでした。③被爆体験のない高校生平和大使た

○反核医師の声 (2) ○

ちが、国連の軍縮会議まで行き、自分たちの核兵器廃絶の考えを伝えたり、街頭で署名活動をしていたりすることに感動しました。皆とても素晴らしい発表でした。

さらに驚いたのは、元々予定になかった田上富久長崎市長が、公人として出席され、強く連帯のあいさつをされたことでした。長崎市民の代表として非常に頼もしくうれしく感じました。

2日目も快晴の下、原爆資料館に集いました。

最初はノーベル平和賞を受賞した I C A N (International Campaign of Abolishing Nuclear weapon) 共同代表のティルマン・ラフ氏の講演から始まり、日赤長崎原爆病院名誉院長の朝長万左男先生から原爆の照射放射能による臓器障害について勉強しました。

秀逸だったのはトリに話された長崎大学准教授の中村桂子さんのお話でした。彼女は元々市民運動の事務局長をされていたそうで、現在は R E N C A (長崎大学核兵器廃絶研究センター) の准教授として活躍中です。核兵器を維持しようとする側の思惑や、原子力についての深い見識について、彼女の講演をさらに2時間は聴きたいところでした。

閉会後は長崎県民主医療機関連合会の医師に先導していただき、原爆資料館から平和公園までを小一時間でまわり、約73年前のこの地区で起こった、痛ましく悲惨で無慈悲な事実のくわしい説明をうけました。この「つどい」で反核・反原発の意志を強くしました。

ぜ ひ ご 参
加

— 一京都からアジアへ、そして世界へ 核兵器も原発もICAN—

第30回反核医師のつどい in 京都

日 時 9月14日(土)・15日(日) 会 場 メルパルク京都 (JR 京都駅から徒歩すぐ)
参加費 医師・歯科医師 5000 円、医療関係者 2000 円、医・歯学生 1000 円

1 日目

- 14:00～ 全体会
- 14:05～ 記念講演「核兵器禁止条約とトランプの核政策」
黒澤満・大阪女学院大学教授
- 15:15～ 活動紹介 平信行 (京都「被爆2世・3世の会」世話人代表)
平野治和 (光陽生協クリニック)
- 15:50～ 特別シンポジウム「金融機関の核兵器製造企業への融資を止めさせよう」
講演①「Don't Bank on the Bomb について」
スージー・スナイダー・PAX 核軍縮プログラム・マネジャー
講演②「クラスター爆弾廃絶における金融機関への働きかけの意義」
目加田説子・中央大学総合政策学部教授
- 18:30～ レセプション

2 日目

- 9:30～ 特別講演「原発の法的問題と日本の司法制度の課題」(仮)
樋口英明・元福井地裁裁判長
- 10:40～ 講演「北東アジア非核化のために私たちにできること」
中村桂子・長崎大学“RECNA”准教授
- 12:10～ まとめの全体会
- 12:30 終了 13:00～ オプション企画

※企画の詳細及びお申し込みについては、同封の案内チラシをご覧ください。

I P P N W北アジア地域会議・参加記

核戦争の防止へ世界中の医師が参加

運営委員 坂口 智計 (須磨区)

2018年9月13日、14日にモンゴル・ウランバートルの保健省カンファレンスホールで、第10回I P P N W (核戦争防止国際医師会議) 北アジア地域会議が開かれた。参加した坂口智計運営委員の参加記を掲載する。

今回の地域会議には、日本、モンゴル、北朝鮮、インド、ネパール、オーストラリア、オランダから医師・歯科医師ら90人が参加した。

I P P N W共同会長の共同会長のティルマン・ラフ医師が「核兵器禁止条約 (T P N W) の国連採択と核なき世界への展望」と題して基調講演を行った。ティルマン氏は、「医師にはすべての政府が核兵器禁止条約に参加するようエビデンスに基づいた訴えをするという専門職としての道義的な責任がある」と述べた。

その後2日間かけて、五つのシンポジウムが行われた。テーマはそれぞれ「I P P N W地域別報告および放射線被ばく者への医療」、「非核兵器地帯の拡大」、「環境と放射線」、「I P P N W南北の対話」、「放射線と健康問題」。モンゴルからウランチメグ・モンゴル国立がんセンター放射線安全委員会主席らなど政府関係者も含めてそうそうたる顔ぶれが講師を務めたこと、朝鮮半島情勢を反映して、北朝鮮からも医師が



兵庫県保険医協会理事会で会議の模様を報告する坂口運営委員 (10月27)

参加したことが特徴的だった。

I P P N Wは米国のバーナード・ラウン医師とソ連のエーゲニィー・チャゾフ医師が提唱し、1980年に設立された核戦争を防止するための医師の団体で83カ国、約20万人の医師が参加している。1981年以来、現在は隔年で世界会議と地域会議を開催している。

引き続き、「ヒバクシャ国際署名」

「安倍9条改憲NO! 憲法を生かす全国統一署名」

2つの署名にご協力を!

同封の受払返信封筒でご投稿ください。



核戦争を防止する兵庫県医師の会 第38回総会・記念講演

米公文書から迫る 核兵器・原発推進体制の闇

日時 7月28日(日) 13:30～16:00

(13:30～ 総会議事 14:00～記念講演)

会場 兵庫県保険医協会 5階会議室

講師 高橋 博子 氏 (名古屋大学大学院法学研究科研究員)

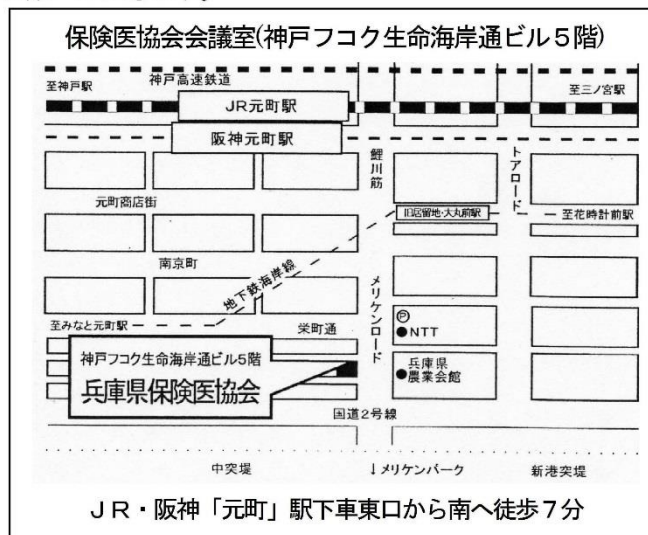


高橋博子 (たかはし・ひろこ) 氏

名古屋大学大学院法学研究科研究員。アメリカ史専攻。日本平和学会会理事。広島平和記念資料館資料調査研究会委員、第五福竜丸平和協会専門委員。著書に『〈新訂増補版〉封印されたヒロシマ・ナガサキ—米核実験と民間防衛計画』(凱風社、2012年) など。

参加費無料 どなたでもご参加歓迎です
核戦争を防止する兵庫県医師の会

機密解除された米国の公文書にもとづき、当局がヒロシマ・ナガサキ、ビキニの原水爆被害者を治療でなく、「核時代」の次の戦争に向けた研究の対象としかみなかったことを明らかにした、米国の核開発史に詳しい高橋博子さんに、広島・長崎に米原爆傷害調査委員会(ABCC、現在の放射線影響研究所の前身)ができる経緯や、原子力推進の体制の実情について、お話いただきます。



参加申込 兵庫県保険医協会 FAX078-393-1820 または shin-ok@doc-net.or.jp まで

核戦争を防止する兵庫県医師の会総会(7/28)に参加します

() 人 所属・医療機関名 お名前

沖縄と連帯し、辺野古新基地建設阻止を一

沖縄県民投票「埋め立て反対」7割

辺野古埋め立ての是非を問う県民投票が2月24日に投開票され、「反対」が7割を超え、「新基地建設反対」の圧倒的な民意が示された。兵庫県保険医協会は、沖縄県保険医協会からの呼びかけに応じて、2月9日の理事会で支援を決定。会員に募金を呼びかけるとともに、役員・会員・事務局が現地に入り支援を行った。県民投票前日の23日には沖縄協会から仲里尚実会長が来神し、募金と支援のお礼を伝えるとともに、政策研究会「医師から見た戦後の沖縄—命と暮らし、人権—」のテーマで講演した。研究会の概要と、県民投票支援に参加した多田和彦会員の参加記を掲載する。

沖縄県保険医協会・仲里会長が講演

日米安保条約・地位協定が問題

沖縄協会の仲里会長は、日本国土のわずか0.6%という沖縄県に、在日米軍基地の約7割が押し付けられている現状を語り、その理由として、終戦後に住民を収容所に押し込め、土地を略奪する「銃剣とブルドーザー」により軍事基地が作られたと説明。その後、島ぐるみの闘争により、不可能と言われていた日本本土復帰を果たしたものの、米軍基地はそのままにされている現状を語った。

仲里会長は、基地撤去がなされない理由として、日本国憲法の上に日米安全保障条約があり、その上には日米地位協定と日米合同委員会が存在していると解説。日米地位協定と日米合同委員会により、辺野古新基地建設などの方針が定められて、沖縄県民の地方自治が奪われていると語った。

辺野古新基地建設については、国が工事を強行しているが、埋め立て予定地には軟弱地盤が広がっており、国の建設計画は無謀であるとした。

政策研究会の最後には西山裕康兵庫県保険医協会理事長が、協会に寄せられた募金を仲里会長にわたし、沖縄との連帯を約束した。

研究会には、医師・歯科医師ら31人が参加した。



沖縄に米軍基地が存在する歴史的経過を語った仲里先生

沖縄県民投票支援活動・参加記

街頭へ出て

新基地建設反対訴える

会員 多田 和彦（伊丹市）

2月10日、11日と2日間にわたり沖縄県民投票前の大事な時期に、新基地建設反対の運動に参加させていただきました。

以前に三上智恵さんの辺野古移設に対する講

○反核医師の声（6）○

演を聞いたことがある身として、今回の運動は参加しておくべきだと感じ、メンバーに入れていただきました。

寒波に見舞われた本土と違い、気候が穏やかな沖縄に到着すると、沖縄県保険医協会会長の仲里尚実先生がお忙しいところわざわざ空港まで出迎えてくださり、ともに記念写真を撮らせていただきました。

その後、沖縄民医連の事務所にて辺野古移設反対運動の旗や、プラカード、スピーカーを受け取り、全国から集まった

方々と一緒に、街頭にて反対運動に参加しました。反対運動を通して、今回の県民投票は沖縄にとってとても重要であると、県民の方々の思いを感じました。

ただ、無関心に感じる方ももちろんおられて、五つの市が県民投票に参加する代わりに、投票欄に新しく付けられた「どちらでもない」に○をしてしまう方がどれくらい増えるのだろうか、という不安も感じました（結果的に杞憂に終わりましたが）。

今回の運動に際して、県外の人間が反対運動していることに対する反発みたいなものは、意



街頭で「新基地建設のための埋め立て反対に○」を訴えた

外なほど一切受けませんでした。これは、基地問題は沖縄のみの問題でないことを沖縄の方も感じておられるからかもしれません。日本における基地問題という認識が広がっていると感じます。

雨に打たれたり、日差しが強かったりと、この2日間でややバテましたが、基地問題を争点にした県民投票という歴史的な運動に関わることができ、また、結果としても過半数の反対票を民意として、国へのメッセージにできた点、本当によかったです。

また機会があれば、微力ながら参加したいと思います。

九条の会・兵庫県医師の会

沖縄戦から考える民主主義の危機

市民企画「沖縄スパイ戦史上映&三上智恵監督トーク」に170人

九条の会・兵庫県医師の会は2月17日、市民企画「沖縄スパイ戦史上映&三上智恵監督トーク」を県農業会館で開催。会員や市民ら170人が参加した。

映画「沖縄スパイ戦史」は第2次世界大戦末期の沖縄戦で、沖縄北部で繰り広げられていた



日本の民主主義が危機だと語る三上智恵監督

ゲリラ戦・スパイ戦の実態に迫ったドキュメンタリー。多くの少年が徴兵された「護郷隊」の存在や、強制移住によるマラリア感染、スパイ容疑での住民虐殺などを、住民の証言や資料から描き、背景には身分を隠して沖縄各地に潜伏していた工作員養成機関「陸軍中野学校」の存在があったことを明らかにする。そして、特定秘密保護法が施行され、自衛隊のミサイルが配備されるなどの現在の日本と当時を重ね合わせる。

監督の三上智恵氏は、琉球朝日放送でのアナウンサー、ドキュメンタリー番組制作を経てフリーとなり、『標的の村』『戦場ぬ止み』など沖縄をテーマとしたドキュメンタリー映画の制作を続けている。

三上氏は上映後のトークで、取材時のエピソードや苦労などを語り、「今回の映画で描きかけたのは、日本の民主主義は危機に陥っているということ。これまでの映画の上映会で、基地問題や政治に対する意識が高いと思われる人から『沖縄に寄り添わないと』という、沖縄の問題を対岸の火事のように見ている感想が寄せられ、強い危機感を抱いた」と映画制作の動機を説明。沖縄戦で起こったことと、現在の状況を切り結び、考えてほしいと訴えた。

高原周治・元兵庫県医師会代議員会議長が司会をつとめ、神戸大学名誉教授の川端真人先生が開会あいさつ、西山裕康・兵庫県保険医協会理事長が閉会あいさつを行った。

保団連医療研究フォーラム・公害視察会

沖縄の米軍基地問題を学ぶ

保団連は2018年11月23・24日に医療研究フォーラムを、24・25日に公害視察会を、沖縄県で開催。公害視察会では、米軍新基地建設が予定されている名護市・辺野古や米軍のヘリパッドが建設された東村高江などを訪れ、住民から話を聞いた。参加した近重運営委員と住友会員の参加記を紹介する。

参加記①

汚したくない美しい辺野古の海

運営委員 近重 民雄（須磨区）

まず初めに保団連医療研究フォーラムと公害視察会に参加する機会を与えていただいたことを、保険医協会に感謝いたします。

24日の分科会では、第6分科会「医学史・医療運動史・医療と裁判」に参加しました。特に印象深かったのは、パレスチナ・ガザ地区に入って、現場で難民医療支援活動に当たられて

いる勤医協札幌病院の整形外科のドクターのお話でした。自らの命を危険にさらしながら懸命に診療されている姿に感銘を受けましたが、戦争で悲惨な目に遭うのは兵士だけでなく、一般人である子どもたちや女性、高齢者など弱者たちであると痛感しました。

25日は、辺野古の海をグラスボートで見せていただきました。本当にきれいな海で、多種多様な魚貝類、十数種類の珊瑚、海藻類など、本州では見られない生物を間近に見ることができました。

海岸や川岸にはタコの木やマングローブなど

○反核医師の声（8）○

の植物も見られます。このように生物多様性に富む辺野古の海は世界的に見ても貴重なもので、自分のこの目で見て、百聞は一見に如かずとはこのことだと実感しました。この海がまさに今、赤土で汚されつつあるのは忍びないことであります。

視察会の後、素朴な疑問がわいてきました。「万が一戦争になったとき、自国第一主義の国が真っ先に日本と日本国民を本当に守ってくれるのだろうか？」

参加記②

沖縄の問題は私たちの問題

会員 住友 直幹（灘区）

2018 年度保団連公害視察会 2 日目は、高江ヘリパッド・反戦地主池原牧場・ダイオキシン汚染サッカー場跡地の 3 箇所を視察しました。

基地負担軽減を名目に過半の面積が返還された北部訓練場には、高江集落を囲みオスプレイが発着できるヘリポートを 6 箇所建設して、海兵隊の機能拡充を図る実態の説明を受けました。地区の騒音・低周波被害は、夜間訓練もするオスプレイで増大しており村議会の決議も無



反戦地主の池原さんから、基地として接収された土地を取り返すための運動の経験を聞いた



高江のヘリパッド前のテントで記念撮影

視されているとのことでした。

次に嘉手納に移動し、基地内の黙認耕作地（米軍が許可）で肉用牛を飼っている反戦地主・池原秀明さんの話を聞きました。反戦地主とは、米軍用地として接収された土地の返還を求める契約拒否地主のことです。県職員を辞し、さまざまな困難を乗り越え、体を張って基地反対運動に取り組む姿勢に参加者一同感銘を受けました。

最後に嘉手納空軍基地に隣接するサッカー場のダイオキシン汚染問題について、市議員でもある池原さん（牧場主）から報告を受けました。

改修工事中に合計 108 本のドラム缶が地中から見つかり、最終的にはベトナム戦争で使われた枯葉剤エージェント・オレンジで猛毒のダイオキシン汚染であることが判明しました。そして県内では米軍による土壌汚染が少なくとも 20 箇所確認されており、米軍は沖縄全域をゴミ捨て場のように見なしていたことがうかがえました。

沖縄は「米軍の植民地」と「本土の植民地」という二重の差別を受け続けているように思えて参加者一同、沖縄についてもっとしっかりコミットしていかなければという想いを強くしながら帰途に着きました。私たち 43 名に二日間同行し説明して下さった平和ガイドの横田眞理子さんに感謝します。

関西電力神戸支社前行動が 350 回迎える

原発ゼロ求め三宮センター街をパレード



住友先生らが原発ゼロを求め、センター街をパレードした

毎週金曜日、関西電力神戸支社前で市民が原発ゼロを訴えている「関西電力神戸支社前行動」が3月15日で、350回を迎えた。この行動は2012年7月6日から毎週欠かさず行われているもので、ほぼ毎回、会員の住友直幹先生が参加している。記念企画「第350夜」には市民ら70人が参加した。

参加者は関西電力神戸支社前で「原発に頼らない社会をつくるため、皆で声を上げ続けよう」などと訴える抗議行動を行った後、「原発なくそう」「再稼働反対」「全ての原発今すぐ廃炉」とアピールしながらセンター街をパレード。マルイ前で参加者が脱原発に込める思いを語り、原発ゼロを訴えた。

原水爆禁止 2019 年世界大会



広島と長崎の原爆投下から74年の夏を迎え、今年も両被爆地で原水爆禁止世界大会が開催されます。「核兵器のない世界」をめぐる情勢と展望を学び、「ヒバクシャ国際署名」などの運動を交流する機会とします。

8月7日(水)～9日(金)に長崎市内で開催される集会や分科会への参加者を募集しています。一部のみの参加も歓迎！

大会の詳細は、兵庫県保険医協会事務局Tel078-393-1807までお問い合わせください。

保団連近畿ブロック・近畿反核医師懇談会 市民公開講演会

＜「第30回核戦争に反対し、核兵器の廃絶を求める医師・医学者のつどい in 京都」プレ企画

安倍政権とメディアー民主主義とは何かー

日時 7月21日(日) 14時～16時

講師 望月 衣塑子 さん
(東京新聞社会部記者)

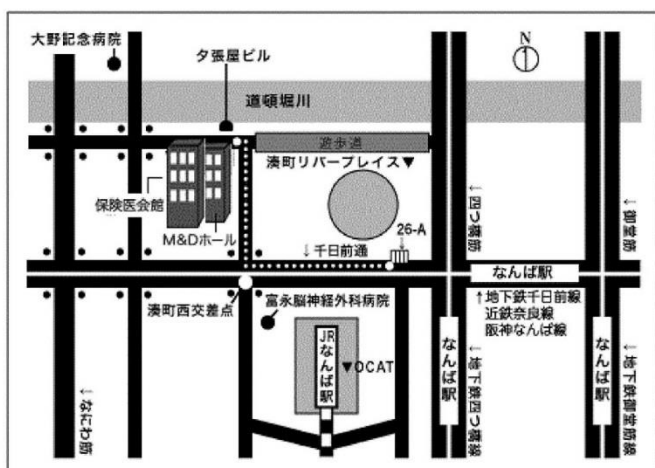
会場 M&Dホール

住所 大阪市浪速区幸町 1-2-33 電話 06-6568-7731
・地下鉄なんば駅下車・地下鉄出入り口 26-A をあがる (徒歩 5 分)



望月 衣塑子 氏 ご略歴

【もちづき いそこ】1975年東京都生まれ。東京新聞社会部記者。慶應義塾大学法学部卒業後、東京新聞に入社。千葉、神奈川、埼玉の各県警、東京地検特捜部などで事件を中心に取材する。2004年、日本歯科医師連盟のヤミ献金疑惑の一連の報道をスクープ。また09年には足利事件の再審開始決定をスクープする。東京地裁・高裁での裁判担当、経済部記者などを経て、現在は社会部遊軍記者。最近では、菅官房長官の記者会見で厳しい追及を行うなど活躍。二児の母。趣味は子どもと遊ぶこと



安倍自公政権は、医療費抑制や消費税増税、憲法改正、米国製武器の大量購入など、国民生活を無視して海外で戦争できる国づくりにまい進しています。そればかりか、ウソやデータの改ざん、隠蔽、様々な圧力などを使って国民やマスコミを欺き、政府・与党を正当化しています。

今回は新聞記者として安倍自公政権と鋭く対峙してきた望月衣塑子氏をお招きし、安倍自公政権の本質的な問題点を明らかにしていただき、民主主義について考えます。質問もできる貴重な機会ですので、ぜひご参加ください。

保団連近畿ブロック・近畿反核医師懇談会 市民公開講演会
安倍政権とメディアー民主主義とは何かー (7月21日) 参加申し込み
返信FAX 078-393-1820【兵庫県保険医協会】

☐ 参 加 す る

所属 _____

氏名 _____

※切り取らずにそのまま送信してください。

この件に関するお問い合わせは、各府県の保険医協会・民医連事務局まで

松元ヒロ ソロライブ

オモシロ・おかしく・鋭く!
世相を斬ります!!

「こんにちは、憲法です。
72歳になりました。
わたしがリストラされるという
うわさを耳にしたんですけど、
ほんとうですか」



松元ヒロ

Hiro MaTsumoto

PROFILE

- 1952年 鹿児島に生まれる。
- 1969年 鹿児島実業高校在学中、全国高校駅伝で区間賞。
- 1975年 法政大学在学中に陸上の道から芸の道へ。卒業後、男は黙ってパントマイマーに。その後、よく喋るマイマーとしてお笑いの道へ。
- 1985年 NTV「お笑いスター誕生」で優勝(笑パーティー)。
- 1988年 <ザ・ニューズペーパー>の結成に参加、政治風刺の世界へ。
- 1998年 <ザ・ニューズペーパー>を退団し、ソロ活動開始。
- 1999年 渋谷ジャンジャンにて46歳のソロデビュー。マイムとトークでの"スタンダップ コミック"の公演活動に入る。
- 2005年 「立川談志 日本の笑芸百選」(NHK BS2)に選ばれる。
- 2007年 TBSラジオ「永六輔その新世界」の「土曜ワイド芸能大賞」受賞。
- 2000~09年 立川志の輔師匠の「志の輔らくご」に毎月ゲスト出演。
- 2008年~ ソロライブ「ひとり立ち」を春と秋、定期的に続けている。
- 2013年~ 「週刊金曜日」に隔週で「写日記」(エッセイ)を掲載中。
- 2015年 「安倍政権を笑い倒す」(佐高信・松元ヒロ著、角川新書)出版。
- 2016年 絵本「憲法くん」(作:松元ヒロ、絵:武田美穂、講談社)を出版。
- 2018年 NHK Eテレ「にほんごであそぼ コンサートin 出雲」出演。

2019 **8/24** 土 SAT OPEN 13:30
START 14:00

参加協力券

一般 **2,000円** 18歳以下
障がい者(付添い1名まで) **1,000円**

神戸市勤労会館 大ホール

神戸市中央区雲井通5丁目1-2
市営地下鉄・JR・阪急・阪神・ポートライナー各三宮駅から東へ徒歩5分

主催:9条の心ネットワーク/兵庫労連

非核の政府を求める兵庫の会 市民学習会

再生可能エネルギー中心の 持続可能な社会を目指して

日 時 8月31日(土)15:00~17:00

会 場 兵庫県保険医協会 6階会議室

講 師 和田 武さん (自然エネルギー市民の会代表、元日本環境学会会長)

参加費 1000 円

主 催 非核の政府を求める兵庫の会 問合先・事務局 電話 078-393-1833 shin-ok@doc-net.or.jp 協 賛
神戸YWCAピース・ブリッジ、市民社会フォーラム

世界では脱原発傾向が主流となり、先進国では原発生産は多くが中止されつつあります。日本でも東京電力福島第一原発の事故以来、電力買い取り制度を活用しつつ、一定の再生エネルギー生産が進んでいます。この進展の最大の成果として、自治体ぐるみの方式や組合制度の活用で、住民の手に資本出資と管理運営を握って、成果を還元し次の発展を準備するところまで来ています。自然エネルギー市民の会代表の和田武さんに脱原発に向けた再生可能エネルギー普及の現状・可能性・課題についてお話いただきます。



和田武(わだ・たけし)さん

京都大学工学部卒業、同大学院工学研究科修士課程修了。工学博士。元立命館大学教授、元日本環境学会会長。専門は環境保全論、資源エネルギー論。主な著書『再生可能エネルギー100%時代の到来』(あけび書房)、『飛躍するドイツの再生可能エネルギー』(世界思想社)など。現在、和歌山大学客員教授、自然エネルギー市民の会代表。

